

## 対象社会基盤施設の抽出調査

### (1) 北海道において対象となる社会基盤施設の抽出調査

抽出調査は土木学会が平成13年3月30日に、ミレニアム2000記念号と位置付け発行した「日本の近代土木遺産」～現存する重要な土木構造物2000～の北海道地区のデータ、並びに全国総合調査の一環として北海道教育委員会が実施し、平成7年3月に発行した「北海道の近代化遺産」～近代化遺産総合調査～に記載されたデータおよび一覧表に記載している報告書・論文等を中心にして実施した。

なお、これらの資料に土木学会・北海道支部(支部長:佐藤浩一)に設置されている選奨土木遺産選考委員会に所属する委員による資料収集と現地調査によるデータを加筆した。

北海道の広範囲な現地調査に対して各委員には下記の担当区域が、今 委員長より指示された。

#### 担当区域

- \* 今 委員長・・・上川支庁、留萌支庁、十勝支庁
- \* 桜井 委員・・・宗谷支庁、網走支庁、釧路支庁、根室支庁、日高支庁
- \* 原口 委員&小山 委員・・・後志支庁、石狩支庁、空知支庁
- \* 葦澤 委員・・・胆振支庁、渡島支庁、檜山支庁
- \* 進藤 委員・・・日本海沿岸(稚内市～函館市)
- \* 進藤 委員・・・離島(利尻島、礼文島、奥尻島、焼尻島、天売島)

選奨土木遺産選考委員会の協議を経て、「調査施設一覧表」に記載された北海道の重要な社会基盤施設(118ヶ所)を抽出した。但し、この中には既に解体撤去された構造物は8ヶ所、復元中の構造物は1ヶ所が含まれている。

特に日本海沿岸の「袋澗」の調査に関しては、資料として使用した「積丹半島及び西海岸・離島の袋澗の現状と保存課題」山田大隆著によると300ヶ所の「袋澗」の存在が報告されているが、今回の調査では波浪による構造物の損壊や道路拡幅による撤去等により130ヶ所程度しか確認されなかった。

### (2) 抽出社会基盤施設の整理

北海道の土木遺産リストを作成したのが「調査施設一覧表」(118ヶ所の構造物)である。

作成に当たっては、今後の構造物の評価・分析に利用するために、既存の資料よりも最新の現地調査を優先した。

## 平成15年度 土木学会北海道支部選奨土木遺産選考委員会名簿

役 職	氏 名	所 属
委員長	今 尚之	北海道教育大学教育学部助教授，博士(工学)
委 員	葦澤 憲吉	函館工業高等専門学校環境都市工学科教授，博士(工学)
委 員	桜井 宏	北見工業大学工学部土木開発工学科助教授，博士(工学)
委 員	原口 征人	社団法人北海道開発技術センター主任研究員，博士(工学)
委 員	小山 茂	札幌大学女子短期大学部助教授
委 員	山本 茂	
委 員	武智 弘明	技術士(建設部門)
委 員	新宮 康弘	技術士(建設部門)
委 員	坂本 容	
委 員	進藤 義郎	技術士(建設部門)
顧 問	佐藤 馨一	北海道大学大学院工学研究科教授，博士(工学)
土木学会 事務局	進藤 義郎	技術士(建設部門)
土木学会 事務局	佐々木 文雄	社団法人土木学会 北海道支部 事務局長